

フリースマイル鹿児島

支援理念：ひとりひとりが自立した社会人になる。

本人だけでなく、家族もともに笑顔になる支援を心掛ける。



衣服の着脱、食事、排泄などの身辺自立能力 自分のことは自分でやろう

自分ひとりで出来ないことは、スタッフが手伝います

- 濡れた衣服、汚れた衣服の着脱・片付け
- 夏はプールに入りますが、その際の着脱
- お弁当の準備、おやつ準備・片付け
- たこ焼き・焼きそば・カレーなど軽食作り など

健康・生活



ふりまいるのかつどう
フリースマイルでの活動



道具の扱いなどの作業遂行に関する能力

遊び道具だけでなく、生活に必要な道具を

- たくさん体験して使えるように練習する
- ドライバーを使って、棚を組み立てる
- はさみで綺麗に形を切る
- ラケットでまっすぐ羽を打つ
- 洗剤とスポンジでコップを洗う など

運動・感覚

自分の行きたい所へ移動するための能力

高学年と低学年では、実施できる自立移動範囲には差があります。安全面には十分考慮しつつ、移動範囲を広げて行きます。

- 電車の切符を買って電車に乗る
- 安全を確認して、横断歩道を渡る
- 自分の家の場所を説明できるようになる など

認知・行動



家族支援

家族の体調について情報を得ることで、利用者への体調管理へ繋がります。保護者様とコミュニケーションを重ね、家族を含め一貫した支援体制を構築します。また保護者様の悩みを聞く相手となり、保護者様の精神的な負担の軽減を図ります。



移行支援

適齢期に差し掛かった利用者様に、就労に向けた取り組みや就労支援事業所への定期的な体験を図り、卒業後に向けた支援を実施します。



地域支援

地域での催しに参加することや、ごみ拾いなどの行事に参加し、地域社会との繋がりを構築します。



職員の質の向上

事業内・事業所外研修を行い、支援の向上に努める。研修費用を会社負担にすることや、OJT*の制度を活用し、研修に組みやすい職場環境を構築する。
* 実際の仕事を通じて指導し、知識や技術を身に付けさせる教育方法



営業時間 平日 10:00-19:00
学校休 9:00-18:00

サービス提供時間 平日 14:00-17:45
学校休 10:30-16:30

送迎有

発達支援の5つの領域

発達支援は、子どもが将来、日常生活や社会生活を円滑に営めるようにするために行うものであり、具体的な本人支援は障害のある子どもの発達の側面から、左記の5つの領域になります。

言葉や文字によるコミュニケーション能力

コミュニケーション能力には大きな差がありますが、大切なことは、言葉の上手さではありません。正しいことを正しく相手に伝えること。上手く言葉が話せなくても、ありがとう、ごめんなさいを正しく伝えることです。

- 絵カードを使ったコミュニケーション
- 挨拶の重要性
- ありがとう、ごめんなさいをしっかりと言う
- 相手の気持ち良い大きさと話す
- お出かけ時には、店員さんに挨拶をする など

言語・コミュニケーション



人間関係・社会性

家族以外の人の中で、協調性を持って過ごすこと

- 鬼を決めておいかけてこ
- 数人でのトランプ
- 長縄跳び
- 一緒にお弁当を食べる
- お出かけした場所ではその場所のルールを聞き、ルールを守る
- 単独遊びから複数遊びへ移行していく など

ひとりで遊ぶ➡スタッフとふたりで遊ぶ➡複数の人の中で遊ぶ

体験・経験 主な行事等

- 1月 【初詣 お買い物体験】
- 2月 【バレンタインチョコレート作り 恵方巻作り】
- 3月 【ホワイトデークッキー作り 卒業進級お祝い】
- 4月 【お花見 パフェ作り】
- 5月 【母の日プレゼント制作 サンドイッチ作り】
- 6月 【収穫体験 お弁当作り】
- 7月 【魚釣り 川遊び】
- 8月 【BBQ 鹿児島地区合同イベント】
- 9月 【敬老の日プレゼント制作 月見団子作り】
- 10月 【ライフル射撃体験 サイクリング】
- 11月 【スケッチ大会 スイートポテト作り】
- 12月 【クリスマス会 大掃除】

【支援方針】

褒めることを忘れない

SST（ソーシャル・スキルズ・トレーニング）は良く耳にすることはですが、わたしたちは子どもたちに対して常にSSTを基本として接します。
1 正しい行動を見せる 2 子どもたちがやってみる 3 正しいことを教える
4 どんな小さなことでも褒める 5 出来る体験を増やしていく
6 子どもたちに自信とやる気を与える

なぜ？を常に考える

さまざまな問題があります。大きなことは誰でも気付くでしょう。けど些細なことは？常に子どもたちの変化を感じ取り、察すること。小さなことを気付けば、大きな問題にならずにすむ。スタッフ間で小さな気付きを話し合い、なぜ？と考える。

本気で褒めて、本気で叱る。

子どもたちにとって、わたしたち指導員は大きな存在です。わたしたちは今後の子どもたちが正しい心を持って生きて行ってほしいから、褒めるときも、叱るときも、本気です。本気で伝えないと、子どもには響きません。

